

仙台陣屋かわら版

第七十一号

(平成二十三年一月号)

HP: <http://www.town.shiraoi.hokkaido.jp/ka/jinya/> Mail: jinya@town.shiraoi.jp
〒059-0911 白老町陣屋町六八一 TEL/FAX 0144-851-2666 仙台藩白老元陣屋資料館発行

二〇一〇年を振り返って

町制施行三十周年を記念し、昭和五十九年十月に史跡白老仙台藩陣屋跡内に開館した仙台藩白老元陣屋資料館は、これまで実に二十万人を超える方々にご来館いただきました。これも一重に、町民の皆さまをはじめ、日頃よりご協力を賜わっております関係団体の方々の、温かいご支援とご助力の賜物と、心から感謝申し上げます。

さて、二〇一〇年を振り返りますと、三年間勤められた坂本恭啓さん(学芸員)に代わり、四月から干場崇弘さん(同)が新たな仲間に加わるなど、二〇〇九年八月の平野敦史学芸員着任に引き続き、陣屋資料館の顔触れに、まず大きな変化がありました。こうした若いスタッフを中心に、初春の訪れを来館者の皆さまと祝う「麗しの雛人形展」の実施を皮切りに、二五周年の節目となった陣屋資料館の歩みを振り返る「仙台陣屋の二十五周年展」を開催しました。また年度が改まってからは、町内外の刀剣愛好家の全面協力による「短刀の魅力展」を、GWには陣屋ロビーに凛々しい面持ちの五月人形が揃い踏みとなった「武者人形

展」などを催し、訪れた方々に日本が誇るべき伝統文化と接していただくことができました。さらに夏期には、古の蝦夷地の実態を探るべく、アイヌ風俗画を方々の博物館施設や図書館等より借り受け、「絵図が伝えた漁場の営み展」を企画し、美術的にも歴史資料的にも大変貴重な近世蝦夷地の絵画をご覧いただきました。こうした例年の特別展・企画展のほか、大自然に包まれた史跡ならではの「陣屋跡ホタルの観察会」、緑の芽吹き始めた史跡を撮影した写真展「三市町合同撮影会作品展示会」、奥州一宮 塩竈神社の例大祭ならびに「陣屋の日」企画にも、多くの方々が参加され、当館を大いに賑わしてくださいました。

当館はこれまで「活発で開かれたいつも動いている資料館」を志し活動してまいりましたが、本年も様々な企画や事業を通じて、町民の皆さまが気軽に訪れられ、楽しめる施設となれるよう、鋭意精進してまいりますので、皆さまのご理解とご指導・ご協力をよろしくお願い申し上げます。

仙台藩白老元陣屋資料館

館長 武永真

仙台陣屋と友の会、平成二十二年度を願ひて

仙台藩白老元陣屋資料館友の会の発足より、早二六年が経過し、この間、町民の皆さまはもちろんのこと、道内外より大勢の方々のご来館をいただきました。さらに今年は、念願であった新人会員が加わるなど、目まぐるしくもありながら、実に充実した一年を終えることができました。

資料館の展示解説にあたっては、ある時は各資料を実見で確認して色々な発見に笑顔でお帰りなるお客様を見送り、またある時は史跡白老仙台藩陣屋跡を共に散策しながら白老の歴史について語り合ったりで、我々も研鑽を積んで参りました。

まだまだ勉強不足の我々ですが、「来館者と共に学び、そして親しみやすい解説を」をモットーに、資料館事業に対しても積極的に協力しながら一層の活性化を図り、かつ子供たちにも解りやすい解説を心掛けていく所存です。

平成二十三年も、沢山の方にご来館いただけるよう、一意専心の真摯な心構えで、皆さまをお待ちしております。

仙台藩白老元陣屋資料館友の会

会長 川西 政幸



〈白老地域文化大学の
函館研修にも意欲的に参加〉

自分だけのおひな様を作っちゃおう!!

さて、今年もひな祭りの季節が近づいてきました。もし飾る機会や場所に困り、「ご家庭に仕舞われたままのお人形をお持ちでしたら、是非とも、資料館にお預けください。もちろん「素敵なおひな様なので、見てもらいたい」なんて事情でも大歓迎です。二月十一日(金)からの開催です。どうぞお楽しみに!!

さらに今回は、簡単に気軽にできてしまう「ひな人形作成体験」も行います。学芸員等が講師となり、手の平サイズののお人形を、みなさんにつけていただきます。定員がありますので、お早めにお申し込みください。



〈ふんわりとした外観〉

- ◆日時 平成二十三年二月十一日(金) 十三時〜十五時
- ◆場所 仙台藩白老元陣屋資料館 企画展示室
- ◆定員 二〇名
- ◆費用 参加料無料(町民は入館料も無料です)
- ◆道具 はさみ・縫い針・糸など(申し込まれた方には、別途パンフレットを送らせていただきます)

白老地域文化大学の活動から

十一月十三日(土)、陣屋資料館にて第四十三回白老地域文化大学講座「白老産軽種馬の活躍」を実施しました。講師には胆振軽種馬農業協同組合より、今井勝士参事にお越しいただきました。



〈白老産軽種馬について語る今井氏〉

同氏はまず、胆振軽種馬農業協同組合・競走馬のふるさと胆振案内所・社団法人 日本軽種馬協会胆振支部・社団法人 日本軽種馬協会胆振軽種馬場などの概要を説明され、白老町における軽種馬生産牧場について概説。また各章ごとに質疑の時間を設けるなど配慮に溢れ、学生らの活発な参加を促してくださいました。

学生からは、白老での生産牧場の減少理由や、胆振管内の他の牧場数・生産数について、北海道競馬が廃止された場合の影響など、馬産地白老としての意識の高さを伺える質問が多数挙げられました。加えて、馬の生態や接する上での注意事項など、馬自体に対しての質問も目立ちました。学生たちは今回の講座をとおし、馬産は白老において欠かせない産業であるとともに文化であり、同時に極めて身近な存在であることを、改めて実感できたのではないのでしょうか。

竹浦小学校の四年生が資料館を見学

十一月二十五日(木)、竹浦小学校四年生の児童と先生ら二十一名が、資料館を見学しました。白老に陣屋の置かれた理由や、その役割などを子どもたちにわかり易いよう説明。史跡では仙台藩士

が植樹した「最後の赤松」を見ました。さらに今回の見学では、子供たちに鎧兜の試着体験もしてもらいました。あまり触れる機会もない鎧兜を試着した子どもたちからは、「カッコいい」、「重たい」といった歓声があがりました。

今回の見学が郷土の歴史に関心を持つきっかけとなれば幸いです。竹浦小学校四年生のみんな、また来てね!



〈上：解説を真剣に聞く子どもたち
下：鎧兜に身を包み楽しむ子どもたち〉



ところで皆さん、冬の間はいかがお過ごしでしょうか? 一足先に竹浦小学校の子どもたちが試着体験をしましたが、今年度は鎧兜試着体験を十二月四日(土)から三月二十六日(土)までの毎週土曜日、陣屋資料館にて実施します(一月一日除く)。資料館所蔵の試着用鎧兜(大人用二十kg、子ども用十二kg)を用意してお待ちしております。老若男女を問わずご試着できますので、お電話でご予約のうえ、資料館までお越しください。

「仙台陣屋かわら版 第七十一号(平成二十三年一月号)」
発行日:平成二十二年十二月十八日
発行所: 仙台藩白老元陣屋資料館 担当者: 平野・干場